

北区・大宮学区社協が作製

住民目線で 防災マップ



京都市北区の大宮学区の防災マップを、地元社会福祉協議会がこのほど作製した。住民たちがワークショップを開いて地域の課題を洗い出し、避難所や消火設備を自分の目で確認して書き込んだ。東日本大震災を受けて、来年度は一層の充実を図る予定で、同学区社協は「人口が増え、場所によって地勢も違う。細かく調べて万全の体制をとりたい」としている。

防災福祉に詳しい佛教大とがきっかけになった。6の後藤至功講師が昨年1月から学区社協が後藤講師月、同学区で震災や避難所を招いて「防災と福祉のま生活に関する講演をしたこちつくり講座」を開催し、

避難所や消火栓調査



完成した大宮学区の防災マップ。広い学区を8エリアに分けて作成した（京都市北区・西賀茂会館）

要援助者の情報集めも計画

今年2月まで計5回学ん 害時連絡網の確立などの課 題を挙げた。実際に街を歩 いて消火栓や防火水槽など

講座では、学区を8エリ アに分けてワークショップ も確認し、その成果をもと を実施した。毎回60〜90人 にマップを作った。 住民の話し合いから災害に 強いまちをつくりたい」と

が参加し、一人暮らしのお 年寄りや障害者の把握、災 年に避難場所や公共施設、 している。（立川真悟）

コンビニエンスストア、自 動体外式除細動器（AED）、公衆電話の所在地を 記号や色分けで示してい る。今月中に印刷し、全戸 に配布する予定だ。

来年度は民生委員や老人 福祉委員が中心になって、 緊急時に介護・援助の必要 な人の情報を集め、マップ を充実させる予定という。 同学区社協の西田輝雄会 長（76）は「まだ避難場所